京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 平成24年度後期でんおんセミナー

日本の希少音楽資源にふれる

講座詳細

第5回 上方歌舞伎の録音を聴く ―「雁のたより」―

日時 平成24年10月4日（木）
午後2時30分～午後4時30分

講師 前島 美保（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

文政十三年（1830）大坂角の芝居の二の替り狂言「けいせい雪月花」にて上演された三代目中村歌右衛門（金沢龍玉）作「雁のたより」は、江戸後期上方歌舞伎の世話物を代表する作品として、代々上方の役者や囃子方の間に受け継がれてきました。今回は、大正四年（1915）に発売された初代実川延二郎（二代目延若）主演「雁のたより」のSPレコードを中心に聴きながら、上方らしい囃子とは何かについて考えてみたいと思います。

第6回 岡本文弥の新内節を聴く

日時 平成24年11月1日（木）
午後2時30分～午後4時30分

講師 竹内 有一（日本伝統音楽研究センター准教授）

岡本文弥（1895～1996）は、古典の演奏のみならず、稀曲の復活、研究や啓蒙のための著作活動、作曲など多方面で活躍した新内節の功績者です。学生時代に東京の文化堂レコード店や演奏会場で落手した「文弥手作り私家版テープ」を使用し、名曲「明烏」などを聴きます。

第7回 特別講演 ロシアにおける日本音楽への関心

日時 平成24年12月6日（木）
午後2時30分～午後4時30分

講師 ナタリヤ・クロブコヴァ
（モスクワ国立音楽院主席研究員・日本伝統音楽研究センター招聘研究員）

近年、ロシアでの日本伝統音楽への関心が大きくなってきています。そのブームを牽引してきたのが、モスクワ国立音楽院の日本伝統音楽グループ「和音」です。第7回では、ロシアでの日本伝統音楽の受容状況を、講師自身による体験談や箏・三味線の実演を交えながら紹介します。

第8回 義太夫三味線の表現

日時 平成25年1月10日（木）
午後2時30分～午後4時30分

講師 後藤 静夫（日本伝統音楽研究センター所長）

義太夫三味線は太夫の語りと共に「義太夫節」を演奏し、近世演劇としての「人形浄瑠璃」の舞台を形作ります。戯曲世界をリードするのは太夫の役割ですが、三味線は文章に表れない、場の雰囲気の描出、浄瑠璃の足取り等を弾き、最終的には「情」を表現します。義太夫三味線の独特の表現世界を演奏者自身の言葉も交え、稀少な音源を用いて探ってみます。

第9回 昭和後期の“現代音楽”発掘

日時 平成25年2月7日（木）
午後2時30分～午後4時30分

講師 田鍬 智志（日本伝統音楽研究センター准教授）

当センターの資料庫には、60年代～80年代に録音／発売された“現代音楽”のLPレコードが多数眠っています。これらは、日本の作曲家作品の評論家、富樫康（1920～2003）氏旧蔵の資料です。第9回では、富樫氏旧蔵資料のなかから、日本人作曲家による昭和後期の作品、とくに和楽器を取り入れた作品や日本伝統音楽の音階やリズムを採り入れた作品を聴いてみます。

第10回 祇園小唄の世界

日時 平成25年3月7日（木）
午後2時30分～午後4時30分

講師 大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

映画主題歌として昭和5年に生まれた「祇園小唄」は、数ある京都の唄の中でも古典といえます。〝月はおぼろに東山〟で始まるメロディーは、誰もが耳にしたことがあるのではないでしょうか。しかしこの曲に続き、多くの「○○祇園小唄」が生まれたことは、今ではほとんど忘れられています。今回は「祇園小唄」の世界へ、皆さんをご案内いたします。

交通

阪急桂駅東口
【セブンイレブン前の2番のりば】
京阪京都交通バス
12・13・14・25・28系統に乗車約15分
「芸大前」下車すぐ　※平日の日中は毎時平均3本運行

阪急桂駅西口
市バス　西1・西5・西8系統に乗車約20分
「新林池公園」下車徒歩10分

JR京都駅烏丸口
【C2のりば】京阪京都交通バス
2・28系統に乗車約45分「芸大前」下車すぐ
【C5のりば】市バス
73系統に乗車約45分「国道沓掛口」下車徒歩10分

JR桂川駅
京阪京都交通バス
11A系統に乗車約15分または12A系統に乗車約20分
「芸大前」下車すぐ
ヤサカバス
1号系統（桂坂中央行き）乗車約15分「新林池公園」
または「国道沓掛口」下車徒歩10分

京都市立芸術大学
日本伝統音楽研究センター